

平成 30 年度第 1 回仙台市科学館協議会議事録

日 時 平成 30 年 5 月 31 日 (木) 15 : 00 ~ 16 : 20

出席者 磯部裕子, 伊藤任佐子, 大草芳江, 數本芳行, 河野裕彦, 鶴谷研, 長瀬敏郎,
平吹喜彦の 8 委員

(欠席 : 田中真美, やしろ美香)

石井館長, 温参事兼副館長兼事業係長, 西海枝主任指導主事, 小山指導主事,
丹野指導主事, 武田庶務係長, 大森主任

次 第

1 開会

2 委嘱状交付

3 教育長挨拶

○教育長欠席のため, 館長挨拶

4 委員紹介

5 職員紹介

6 議事

(1) 会長及び副会長選出

○会長に河野裕彦委員, 副会長に數本芳行委員がそれぞれ選出された。

7 報告事項

○河野会長が議長となり会議を進行

○議長より議事録署名人に數本委員を指名

(1) 科学館の概要について

(2) 平成 29 年度事業実績及び平成 30 年度主要事業について

西海枝主任指導主事から資料 1, 資料 2, 資料 2 - 2, 資料 2 - 3 により説明。

(質疑等)

【數本委員】 チャレンジ・ラボの参加者数が増えた要因はどんなところにあると

お考えですか。

【西海枝主任指導主事】メニューは随時工夫しています。実際に体験でき、作ったものを持ち帰ることができるので、小さいお子さんを連れただご家族の方に大変人気があります。また来てみたいと思うような体験教室であると思っています。

【温参事兼副館長兼事業係長】ボランティアの方々が経験を重ね、見せ方・誘導の仕方などが上手くなってきています。

【石井館長】開催時間の変更や、アナウンスの工夫もしています。

【数本委員】ウェブアクセス数ですが、自然史図鑑の数値が前年度の倍近くになっています。これはリニューアルか何かがあったのでしょうか。

【西海枝主任指導主事】リニューアルはございません。3月のアクセス数が多いことはわかっていますが、その理由まではわかりません。

【石井館長】分析できる範囲で調べてみたいと思っています。

【大草委員】自然史図鑑や化学薬品などのコンテンツが、展示ガイドやイベント情報と同じくらい見られているのはすごいことだと思います。図鑑のコンテンツが活用されているのはよいことだと思いますが、これは何か工夫をされている成果なのでしょうか。

【石井館長】特にはしていません。化学薬品へのアクセス数が多い点については以前から注目しています。この類のデータベースは他にもあると思いますが、なぜ当館にアクセスが集中するのか。もう少し分析したいと思っていますが、今のところは解析できていません。

【鶴谷委員】この件に関しましては、小学校の理科担当のアクセスも多いのかと思います。薬品の成分や扱い方、保管方法などをインターネットで調べると、仙台市科学館の物が分かりやすい、と。

【石井館長】薬品のデータということであれば、他にもサイトはありますので、「わかり易い」という点で閲覧されていると思っています。長所は伸ばして参ります。

【河野会長】ボランティアはどのような方法で募集されましたか。

【小山指導主事】今回は大学生のボランティアを獲得しようと、6つの大学にポスターの掲示を依頼しましたが、申し込みには至りませんでした。意欲と意識が高くないと難しいのかと。教育センターでは理科の授業をサポートする事業で、アルバイト形式で募集していますが、そちらは賃金が発生しますので、それを超えて科学館のボランティアというのは難しいかと捉えておりました。

【河野会長】大学生、特に大学院生になると、大学の中のティーチングアシスタントなどの仕事が学生に回って来ますので、ボランティア活動ができるとしたら1年生の時に引っ張らないと難しいと思います。

【小山指導主事】新入生の生活が落ち着いた頃にタイミングを計ってポスターの

掲示を依頼したのですが、思いの外手応えがなく、別の手だてを考えなければと思っています。

【伊藤委員】ポスターでは集まらないと思います。教授に直接アタックをして、教授の紹介で、といった手順を踏まないと、学生は集まりません。ボランティア活動や市民活動に興味がない訳ではないのですが、学生はアルバイトなどで忙しいので。

【河野会長】確かに、先生を介して授業の時にでも配っていただければ、学生も一考してくれる可能性もあるかもしれません。

【數本委員】宮城学院大学で博物館教育論というのをやっておりますので、ボランティア募集のチラシは配りましたが、応募はありませんでした。一方で、ペイが発生する特別展のアルバイトの方はかなりの応募がありますので、交通費を負担してとか、ウィークデイに授業を休んでまで、応募には至らないのかと。

【長瀬委員】大学生にシフトしたいと考える理由は何でしょう。若い方々に博物館教育をしたいということであれば、ボランティアではなく、大学にサークルを作ってもらって、そこに任せる、という形の方がよいのではないかと思います。

【小山指導主事】実情を申し上げますと、現在のメンバーの方々は、土・日になるとお孫さんと出かけるなどの理由で、休日にボランティア活動していただける方が少ないという状況です。若い方であれば、土・日も活動していただけるのではないかという意図で、積極的に声を掛けてみた次第です。

【石井館長】サイエンス・デイというイベントを、ボランティア主体でやっていたいので、実際に活動を見ていただきつつ、募集をしているという主張を明確に出してみるのもよいかと。訴えかけ方を工夫して、応募が集まるようにして行きたいと思います。

(3) 平成30年度科学館特別展(案)について

小山指導主事から資料3, 資料3-2, 資料3-3により説明。

(質疑等)

【河野会長】人の流れるスペースは十分確保できるのでしょうか。

【小山指導主事】ひとつ懸念されますのは、資料3-2の3番から4番, 5番へ行く流れと, 3番から6番へ行く流れ。6番から出た時に、逆行する方がいるかもしれませんが、これまでの恐竜展の傾向として、滞留時間は他の特別展と比較して短いということで、人の流れ的には、さほど止まったり滞ったりすることはないだろうと。並ぶのは、5番や6番かと考えております。

【數本委員】VR体験の会場は1階の市民の理科室ですよね。

【小山指導主事】今、整理券の配布を考えております。時間制にするか、自動発券機を採用するか、館内でお知らせをどのように表示するかを、広く情報を集め

ています。また、1階の市民の理科室への導線と、そこから戻る導線を考えているところですが、市民の理科室から入っていただいて、隣のサーバー室から出ていただく形で導線は確保しておりますので、出口と入口が重なることはございませんが、かなりの人気が予想されますので、ケガや、さんざん待たされたのに体験できなかったといったことにならないように、最終調整をしているところです。

【数本委員】時間制の整理券が一番いいかもしれませんね。過去、昆虫展の時に整理券で時間制限をしなかったら、1階から3階のエントランスまで並んだということがあります。

【伊藤委員】化石レプリカ作成やVR体験は小学生以上が対象になっていますが、こういうイベントは、4・5歳くらいから興味があります。なぜ対象を小学生以上とするのでしょうか。

【小山指導主事】業者の話ですと、VR体験は酔ってしまうことがあるので、アメリカでは年齢の規制があるらしいのですが、日本では今のところ強い規制はございません。コンテンツは比較的酔わないものと確認はしておりますが、やはり安心・安全面を考えると、小学生以上の方が妥当なのかと。レプリカ作成教室の方も、他のイベントと同様、ご家族で参加していただけますので、原則は小学生以上という形にさせていただいております。

(4) その他

○丹野指導主事から資料4により説明

(質疑等)

【数本委員】昨日、授業の様子を拝見しましたが、理科の実験というよりは、家庭科のような感じで、女子生徒もたくさんいました。身近なところで科学や生物にアプローチできるといったスタンスで、楽しく学習しているという印象を受けました。

○西海枝主任指導主事から資料5、資料5-2により説明。

(質疑等)

【伊藤委員】子どもを連れて行く場所を探しているお母さんたちが、科学館のことを知らないのを伝えると、「行ってみたい」と返ってきますので、やはり周知するということが一番かな、と思っています。

【磯部委員】幼児の場合は、文字を読むのは難しいので、いろいろな形で体験できるということが大事だと思います。そんなところが折々にあると、子どもたちは惹きつけられると思います。先ほど酵母の授業の話がありましたが、例えば酵母を入れるとパンが膨らむけれど入れないと膨らまない、などというのは幼児教育の中でも時々やる内容です。そういったことも実践すると、就学前の子どもたちの教育にも寄与できるのかなと思いました。

【河野会長】資料5－2はわかり易くてよいと思いますが，4つの項目のうち，例えば「郷土の自然・地史」と「科学技術や研究」は離れてしまっています。本当は，工学的な技術などと歴史的な発見などはとても繋がりがあるといいますので，見せ方を工夫してみられるとよいと思います。

8 事務連絡

次回の開催日程につきましては，河野会長と調整のうえ，事務局からご案内いたします。

9 閉会

平成 年 月 日

議事録署名人

仙台市科学館協議会 会長 印

仙台市科学館協議会 委員 印